

菊地昌典教授略歴および主要著作目録

[略 歴]

1930年(昭和5年)2月17日 東京都生まれ
1997年(平成9年)5月22日 逝去(享年67歳)

学 歴

1952年(昭和27年)3月 東京大学農学部獣医畜産学科卒業
1955年(昭和30年)3月 東京大学大学院農業経済学専攻課程修了
1966年(昭和41年)3月 農学博士(東京大学 第877号)

職 歴

1955年(昭和30年)5月 国立国会図書館調査立法考査局主査(海外事情調査室)
1966年(昭和41年)5月 東京大学教養学部助教授(社会科学科・国際関係論教室)
1967年(昭和42年)4月 東京大学大学院社会学研究科担当(昭和60年3月まで)
1968年(昭和43年)4月 東京外国語大学非常勤講師(ソ連の政治担当、昭和50年3月まで)
1969年(昭和44年)4月 京都大学文学部非常勤講師(ロシア現代史担当、昭和48年3月まで)
1974年(昭和49年)4月 東京大学大学院人文科学科担当(平成2年3月まで)
1974年(昭和49年)4月 名古屋大学経済学部非常勤講師(ソ連の政治担当、昭和50年3月まで)
1978年(昭和53年)7月 東京大学教養学部教養学科ロシア第一講座担任
1980年(昭和55年)4月 北海道大学スラブ研究センター研究員(昭和56年3月まで)
1980年(昭和55年)4月 東京大学教養学部教授(国際関係論・社会主義政

- 治論・ソ連政治史演習・比較社会体制論担当、平成2年3月まで)
- 1980年(昭和55年)4月 成蹊大学法学部非常勤講師(欧米研究第三担当、平成2年3月まで)
- 1980年(昭和55年)4月 聖心女子大学文学部非常勤講師(西洋現代史担当、平成元年3月まで)
- 1980年(昭和55年)9月 メキシコ国立大学院大学(El Colegio de México)客員教授(昭和56年3月まで)
- 1985年(昭和60年)4月 東京大学大学院総合文化研究科担当(平成2年3月まで)
- 1990年(平成2年)4月 千葉敬愛短期大学教授(国際関係論・比較社会体制論・ロシア東欧地域研究担当)国際教養科学科長(平成4年3月まで)
- 1990年(平成2年)5月 東京大学名誉教授
- 1991年(平成3年)11月 学校法人千葉敬愛学園理事(平成9年5月まで)
- 1992年(平成4年)4月 千葉敬愛短期大学学長(平成6年3月まで)
- 1995年(平成7年)4月 敬愛大学国際学部設立準備室委員長(平成9年3月まで)
- 1997年(平成9年)4月 敬愛大学国際学部教授(平成9年5月まで)

学会および社会における主な活動

- 1956年(昭和31年)4月 ロシア史研究会の創設に参加
- 1981年(昭和56年)3月 メキシコ国立大学院大学で「アジアの社会主義」学術報告
- 1985年(昭和60年)3月 中国・山東大学科学社会主義学部で「社会主義の当面する諸問題」のテーマで集中講義
- 1986年(昭和61年)10月 国連大学主催“International Conference on Social Trans-formation”で「明治維新とロシア革命」のテーマで報告(於、レニングラード)
- 1987年(昭和62年)7月 第3回カンボジア問題国際会議で日本を代表して「日本の立場からみたカンボジアの独立」と題し報告(於、バンコク)

- 1987年(昭和62年)11月 国連大学主催“International Conference on Social Trans-formation”で「日本、ソ連、中国の社会変動と近代化の比較考察」のテーマで報告（於、杭州）
- 1993年(平成5年)7月 国連開発計画（UNDP）派遣、中国・吉林省東北アジア経済発展戦略国際学術会議で「吉林経済発展戦略と豆満江下流デルタ開発」を報告（於、長春）
- 1994年(平成6年)11月 ポーランド・ワルシャワ大学日本語教育開始70周年記念国際日本研究シンポジウムで「バブル経済崩壊後の日本のKAISHA」のテーマで報告（於、ワルシャワ）、ワルシャワ大学出版会より近刊予定

[主要著作目録]

単 著

- 『ロシア農奴解放の研究』御茶の水書房、1964年11月。
- 『歴史としてのスターリン時代』盛田書店、1966年11月。
- 『ロシア革命』中央公論社、1967年10月（絶版）。
- 『人間変革の論理と実験』筑摩書房、1971年1月。
- 『増補・歴史としてのスターリン時代』筑摩書房、1972年3月。
- 『社会主義と人間——国家と「私」』潮出版社、1973年3月。
- 『1930年代論——歴史と民衆』田畑書店、1973年10月。
- 『ロシア革命と日本人』筑摩書房、1973年12月。
- 『革命と民衆——国家論への試み』潮出版社、1974年10月。
- 『試練にたつ社会主義』人文書院、1976年4月。
- 『体験的社会主義論』毎日新聞社、1976年10月（中国語訳『我所体験的社会主義』譚美華訳、吉林人民出版社、1983年3月）。
- 『現代ソ連論——史的考察と理論分析』筑摩書房、1977年10月。
- 『現代社会主義の論理』三一書房、1978年6月。

『歴史小説とは何か』筑摩書房、1979年10月。

『トロツキー』講談社、1981年12月（トロツキーの著作の翻訳は、原暉之、藤本和貴夫、内村剛介の各氏による）。

『中ソ和解』徳間書店、1982年10月。

『歴史と想像力』筑摩書房、1988年10月。

共 著

『現代の変革と人間』（共著者・平田清明氏）新地社、1971年8月。

『現代における変革と人間（Ⅱ）』（共著者・佐竹明、平田清明氏）新地社、1972年8月。

『中ソ対立』（共著者・穴戸寛、矢吹晋、袴田茂樹氏）有斐閣、1976年10月。

『北京・新疆紀行——革命と民衆を訪ねて』（共著者・山本満氏）筑摩書房、1978年6月。

『新インドシナ戦争——闘うベトナム・カンボジアと中・ソ』（共著者・今川瑛一、木村哲三郎氏）亜紀書房、1980年1月。

『歴史文学読本』（共著者・尾崎秀樹氏）平凡社、1980年3月。

編 著

『社会主義』（「講座マルクス主義」第10巻）日本評論社、1969年8月（第1章「社会主義と階級闘争」執筆）。

『ロシア革命以後』（「現代革命の思想」第2巻）筑摩書房、1971年1月（編集および解説「1930年代論——人間の理性と残虐の一考察」執筆）。

『ロシア革命』（「現代革命の思想」第1巻）筑摩書房、1971年12月（編集および解説「ロシア革命と軍隊」執筆）。

『革命思想の名著12選』（石堂清倫氏との共編）学陽書房、1972年9月（Ⅱ.レーニン『国家と革命』執筆）。

『ソビエト史研究入門』東京大学出版会、1976年6月（「ソビエト史研究のすすめ——序にかえて」、「第1章・日本人のロシア・ソ連観」、「第6章・スターリン独裁体制」執筆）。

『ロシア革命論——歴史の選択』田畑書店、1977年11月（「ロシア革命と現代——序にかえて」執筆）。

『社会主義はどこへいくか』亜紀書房、1985年10月（「はしがき」、「現代

社会主義を考える」執筆)。

『社会主義革命』(「社会主義と現代世界」第1巻) 山川出版社、1989年8月(「まえがき」、「I. 社会主義革命と現代世界」執筆)。

『社会主義の現実——東欧・ベトナム・アフリカ』(「社会主義と現代世界」第2巻) 山川出版社、1989年8月(「まえがき」、「I. 社会主義と経済発展——中国・ソ連の経済・政治改革の必要と困難さ」執筆)。

『社会主義の現実——ソ連・中国』(「社会主義と現代世界」第3巻) 山川出版社、1989年11月(「まえがき」、「V. 中国プロレタリア文化大革命」執筆)。

翻 訳

V.I. レーニン『国家と革命』(「世界の名著」第52巻) 中央公論社、1966年5月。

L. ウラジミール『素顔のロシア人』タイム・ライフ社、1969年6月。

B. ラジッチ・M. M. ドラチコヴィチ『コミンテルンの歴史』三一書房、1977年8月(監訳と「解説にかえて」執筆)。

I. ドイッチャー『大粛清・スターリン神話』(共訳者・大島かおり氏) TBSブリタニカ、1985年4月(翻訳および解説「歴史家ドイッチャーのスターリン観」執筆)。

単行本に収められた論文

「畜産業と製酪資本」、近藤康男編『日本の農業』毎日新聞社、1955年。

「第2章・農民的牛馬飼育の存在形態」、「第4章・農法からみた糞畜厩肥論」、「第9章・家畜商と農民」、「あとがき」、栗原藤七郎編『日本畜産の経済構造』東洋経済新報社、1962年。

「獣疫侵入と国家賠償」、「家畜保険会社の企図」、「家畜共済事業の台頭」、農林省『農業災害保障制度史』第1巻、1963年。

「中国とソビエトの文化革命——毛沢東とスターリンの階級闘争観」、白井吉見編『激動するアジア』(「現代の教養」叢書第13巻)、筑摩書房、1967年。

「激動する世界の中の中国」、桑原武夫編『世界の歴史』第24巻、河出書房新社、1970年。

- 「ソ連反体制知識人の思想と論理」、久野収編著『体制と文学』朝日新聞社、1974年。
- 「ロシア・ソ連における『進歩』と歴史変動」、鶴見和子・市井三郎編『思想の冒険』筑摩書房、1974年。
- 「歴史・人間・文学」、『大岡昇平対談集』講談社、1975年。
- 「1930年代の歴史と文学を考える」、五木寛之対談集『視想への旅立ち』河出書房新社、1975年、のちに河出文庫、1981年に所収。
- 「現代社会主義の矛盾と教訓」、『市民社会と社会主義』（『月刊労働問題』増刊）日本評論社、1976年。
- 「非凡人と凡人の『自伝』』『日本人の自伝』第4巻解説、平凡社、1982年。
- 「チッソ労働組合と水俣病」、色川大吉編『水俣の啓示』下巻、筑摩書房、1983年。
- 「中ソ問題」、『新中国年鑑1983年版』大修館書店、1983年。
- 「レーニンとスターリン」、『マルクス死後100年』（別冊『経済セミナー』）日本評論社、1983年2月、所収。
- 「現代社会主義の当面する問題——社会主義階級社会論の一考察」、葉山禎作ほか編『古島敏雄先生古稀記念論文集 伝統的経済社会の歴史的展開』下巻、時潮社、1983年。
- “Socialismo en Asia,” Adriana Novelo ed., *Asia Oriental: Opciones de desarrollo*, El Colegio de México, 1984.
- 「文庫のすすめ」、植田康雄編『読書大全』講談社、1985年。
- 「『収容所群島』と社会主義の告発」、『竹内好談論集 1』蘭花堂、1985年。
- 「社会主義とスラヴ民族」、森安達也編『スラヴ民族と東欧ロシア』山川出版社、1986年。
- 「いかなる日本を作るべきか」、『「文芸春秋」にみる昭和史』第3巻、文芸春秋、1988年。
- 「ソ連・中国にみる現代農業の変貌——郷鎮企業を軸とした比較考察」、『中国における小城镇建設に関する研究——江蘇省を中心にして』（NIRA研究叢書）鶴見和子代表）総合開発研究機構、1989年。
- 「読書日録」、植田康雄編『読書日録大全』講談社、1989年。
- 「解説」、西園寺公一『貴族の退場』、筑摩書房、1995年。

雑誌論文

- 「ソ同盟のロシア地主経営のブルジョアの発展に関する最近の研究動向」『農業経済研究』29巻3号、1957年9月。
- 「ロシア革命史研究の視角——岩間徹氏とゴリコーフのロシア革命史について」『歴史学研究』251号、1961年3月。
- 「ソビエト史学におけるロシア国家独占資本主義論争」『歴史学研究』263号、1962年3月。
- 「ロシア帝国主義と支配階級の性格」『歴史学研究』264号、1962年4・5月。
- 「スターリン時代の『学問の自由』と歴史家——M. H. ポクロブスキイの名誉回復を中心として」『歴史学研究』270号、1962年11月。
- 「ソビエト史研究とスターリン批判」『ロシア史研究』4巻2号、1963年11月。
- 「スターリン時代——粛清と名誉回復のあいだ」『中央公論』914号、1963年12月。
- 「整風と知識人——新島淳良『現代中国の革命認識』を読んで思う」『歴史評論』170号、1964年10月。
- 「日本人によるロシア把握の歴史的変遷——ロシア農奴解放と明治維新の比較論を中心として」『歴史学研究』293号、1964年10月。
- 「スターリン時代の粛清と自己批判——1937～39年を中心とした一考察」『思想』486号、1964年12月。
- 「ロシア革命とコミンテルン」『ロシア史研究』6巻1・2号、1965年11月。
- 「レーニン『国家と革命』プラン」『現代の理論』3巻10号、1966年10月。
- 「米中共同コミュニケの思想」『経済セミナー』200号、1972年4月。
- 「スターリン体制下の音楽家たち」『音楽芸術』音楽の友社、1978年12月号。
- 「中ソ対立と東欧」『日本経済協会報』1978年12月号。
- 「中越紛争と華僑問題」『アジアレビュー』1978年冬季号。
- 「中国のソ連論」（中国研究所1980年研究集会・報告特集）『中国研究月報』394号、1980年12月。
- 「国際共産主義運動の動向とソ連」（焦点・グローバルパワーとしてのソ連（1））『国際問題』269号、1982年8月。
- 「中ソ和解へ動く中国の外交戦略」『エコノミスト』60巻43号、1982年10月12日。

- 「ソ連における政権交代の意味」〈座談会・木村浩、西村文夫氏〉（焦点・アンドロポフ時代のソ連）『国際問題』289号、1984年4月。
- 『1984年』と社会主義『中国研究所月報』441号、1984年11月。
- 「平和憲法の重み——いまこそ、それを生かす時である」（戦後40年を検証する）『公明』280号、1985年5月。
- 「中国の壮大な実験はどこへ行く——21世紀にらんだ日本の対応は」〈特別座談会・河合良一、宮崎義一氏〉（徹底研究中国の挑戦 PART 1）『エコノミスト』63巻29号、1985年7月8日臨時増刊。
- 「平和戦略の可能性を探る——緊張緩和の中での日本の対応をめぐる」〈鼎談・鴨武彦、矢野絢也氏〉（特集・米ソの対話が始まった）『公明』286号、1985年11月。
- 「中国農村の細密画——ある村の記録 1936～82」〈書評〉（費孝通著、小島晋治ほか訳）『公明』295号、1986年8月。
- 「失敗の恐れ強いゴルバチョフ改革」〈沢英武氏インタビュー〉（特集・混迷するソ連・中国の悲劇——共産主義体制は21世紀まで生き残れるか）『正論』176号、1987年4月。
- 「強まるベトナム軍撤退の機運——自決権尊重を打ち出したカンボジア国際会議」〈現地報告〉『エコノミスト』65巻41号、1987年9月29日。
- 『「昭和」の意味を考える』〈鼎談・宮崎繁樹、和田教美氏〉（特集・「昭和」を検証する）『公明』324号、1989年1月。
- 『「政治改革」私の提言——政治資金と議席配分にメスを』（特集・民意を反映する「政治改革」への道）『公明』327号、1989年4月。
- 「疑似『福祉国家』は崩壊した——『社会主義』滅びの淵より思うこと」（特集・中ソ新時代の混沌〔1〕）『朝日ジャーナル』31巻21号、1989年5月5日。
- 「中国社会主義はどこへ行く——『政変』で明らかになった一党独裁の脆さ」〈座談会・毛里和子、進藤栄一氏〉（特集・天安門以後の中国）『エコノミスト』67巻28号、1989年7月4日。
- 「ソ連・中国における現代農業の変貌——郷鎮企業を軸として」『NIRA 研究叢書』1989年8月。
- 「“民主化”の現在とこれから」〈対談・木村浩氏〉（特集・社会主義はいま……——ソ連編——いまソ連で起きていること）『公明』310号、1987

年11月。

「公明党の『政権協議への基本的な見解』に有識者から期待のコメント」
(特集・公明党のめざす新しい政治)『公明』336号、1990年1月。

「東欧激変を読む」〈鼎談・南塚信吾、和田教美氏〉(特集・1990年代
——変革の時代を占う〔1〕)『公明』337号、1990年2月。

「体験的社会主义論〔最終回〕資本主義への従属下、新たな時代へ」『エコノミスト』68巻6号、1990年2月13日。

「これからの十年私がいちばん気になること——たよりとするとところは国民の覚醒」(特集・「構造的変化の時代」を生きる——21世紀への指標を求めて)『潮』375号、1990年7月。

「ソ連・東欧・中国の動向と日本」『敬愛論叢』No.5 (敬愛大学経済学部紀要)、1990年。

“Social Transformation in the Soviet Russia, China and Japan,” *Journal of International Liberal Arts*, Chiba Keiai Junior College, No. 1, September 1991.

「社会主義世界の変貌と中国・東アジア」〈講演〉(特集・中国研究所1991年度研究大会報告〔1991.5.26〕——世界構造の転換と中国・東アジア)『中国研究月報』524号、1991年10月。

「菊地昌典氏に問う『まだ社会主義を信じてますか』」〈諸君編集部インタビュー〉(特集・最後の審判)『諸君!』23巻11号、1991年11月。

「現在の『死語』『廃語』茨城耳の会記念誌刊行委員会編『炉辺談話10年』茨城耳の会発行、1992年10月。

「ソ連邦の解体と再編」『SUT Bulletin』東京理科大学出版会、1992年11月。

「吉林経済発展戦略と豆満江下流デルタ開発」吉林省社会科学会主編、吉林人民出版社、1993年4月。

「ソ連の解体と中国の『社会主義』」『日本海運倶楽部講演集』第238号、1993年5月。

「邪馬台国——清張通史 1」(特集・松本清張の世界)『国文学解釈と鑑賞』60巻2号、1995年2月。

(「主要著作目録」の作成に当たっては、村上弘子氏、安岡貴美代氏のご協力をいただいた。記して感謝の意を表したい。——国際学会運営委員会)